

神 社

高崎市立永野郷中学校 二年 黛 千紘

木々が両側に生える、コンクリートで舗装された道。その奥に、わが上小埜町の象徴ともいえる、烏子稲荷神社がある。この神社は古墳の上に作られている、大変珍しい神社である。

小学校の頃、写生大会でこの神社を描いた。一、二年生のときは、正直。めんどくさい、と思い、顔を上げずに、作業としてただ黙々と絵を描いていた。だが、小学校六年生。逆に手が動かなかった。私は神社に見とれていた。素直に「きれいだなあ」と思った。私はその時、神社が生きている気がした。鳥居の朱色、石段の質感、周りの青々とした木々。全てが生き生きとしていた。

それからというもの、私は魅力に取りつかれ、友達と行ったり、あるいは一人で行ったりと、進んで足を運ぶようになった。

しかし、中学生になってから、極端に足を運ばなくなった。部活が始まり、土日にひまな時間が少なくなったからだろう。通学中に右目に見る神社は悲しそうな、寂しそうな感じがした。私はだんだん、神社への興味がうすれていった。

だが、小学校六年生のときの私を呼び戻すようなきっかけが起こった。それは、長野郷中学校で行われている、「地域ふれあい活動」だった。公民館に行って、私は宮司さんのお話を聞いた。

「昔は神社っていうのは地域の人のおこいの場。集会所みたいなところだったんです。ですが今は初詣や祭りのときくらいしか人があまり来ません。しかも来ると言っても高齢者の方が多く、子どもたちは少ないんです。」

と宮司さんはおっしゃった。私は、私自身、この神社が好きだから、私自身が友達に広めていかないとなんだ、と思った。

そして、中学校二年生の夏、部活で大きな大会があるため、私は、「烏子稲荷神社にお参りしに行かない。」

と、部員に行った。すると、みんなが「いいね。」や「行く行く。」と賛成してくれた。嬉しかった。賛成してくれたから、というのもあるが、自分で伝統、文化財をひきついでいるんだ、と実感できたことが、何よりも嬉しかった。その後、部員全員でお参りに行った。

「まずは一勝。勝てますように。」

とお願いした。そしてその後、宮司さんに写真を撮っていただいた。ここでも私は、神社に対する新しい知識を教えていただいた。

私にとって、烏子稲荷神社は本当に特別な場所だ。

私の住む長野郷中学校の校区内には、烏子稲荷神社を始めとする、様々な神社、寺院、石碑が存在する。その全てが、この地域の歴史を語る、大切な文化財なのだ。私は、文化財は、人と似ていると考える。人がいないときは、ぽっかりと何かが足りない、寂しい感じがするが、人がたくさん集まったとき、温かく、優し

い感じがするからだ。私は、烏子稻荷神社のよさを友達に伝えていこうと思う。いつまでも私の特別なものが残るように。そして、昔のような「地域のいこいの場」になるように。

きっと私と神社は同じだ。人がいないのは寂しく、自分のことを認めてもらえないのは寂しいのだ。人が大勢いる。温かい所のほうが好きなのだ。